

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

1.1. 学生確保の見通し

1.1.1. 学生定員の考え方

創生学部では、以下の2つの観点から入学定員を65名と設定することとする。第1の観点は専任教員18名によって少人数教育を実現し、十分な教育効果を得られる教育規模である。創生学部のコアカリキュラムはゼミ形式の科目およびPBL系のアクティブラーニング科目から構成されており、それらの科目を専任教員のうち10名の教員が主に担当する。その中でも重要な授業科目として、複数の必修のゼミ科目（基礎ゼミⅠ～Ⅳ、プロジェクトゼミⅠ・Ⅱ）がある。そこでは、専任教員2名1組で1つのゼミを担当することが計画されており、学生は5つのゼミに分かれて学修することになる。さらに、「基礎ゼミⅠ～Ⅳ」では、1～2年次の学生を、それぞれ差別化された学修成果を得る目的で混在させる計画となっている。これまでの教育経験と教育効果の点から、2人の教員が担当するゼミの適正規模は30名程度が上限と考えられる。したがって、創生学部の適正な学生定員は $(30 \times 5) \div 2 = 75$ 名程度ということになるが、より充実した少人数教育を実現するという観点で65名と定めた。

第2の観点は、既存学部から提供される授業科目への履修規模の適切性である。後に述べるように、創生学部の学生は、専門の領域の知識等を既存の学部（主専攻プログラム）が提供する「領域学修科目パッケージ」から修得することになる。したがって、領域学修科目パッケージが受け入れ可能な人数の観点からも、適正な入学者数を検討する必要がある。既存学部では、当該教育プログラムの所属学生数に即した形で、授業科目を開講している。創生学部の学生がそれらの授業科目に参加すると、その数が既存学部の授業の聴講者数に上乗せされることになる。各授業科目で、教室の使用等の物理的制約及び教育効果の点で10%程度の上乗せが上限となることを踏まえると、人文・法・経済・理・工・農学部で受け入れ可能な総数は130名程度となる。学生の領域学修科目パッケージの選択はある程度偏ることを想定すると、創生学部の65名という学生数はその半数程度であり、十分既存学部で提供される授業科目での受け入れが可能であると考えられる。

1.1.2. 定員充足の見込み

創生学部が、65名の定員を充足しうるか検討するために、本学志願者の多い高等学校の2年生を対象に受験意向に関する調査を実施した。調査は委託した外部組織によって行われ、山形県、福島県、新潟県、富山県の73校の2年生9,886名分を対象に調査を依頼した。そ

表 1 高校所在地別の受験・入学意向者数とその割合

	回答者数	受験意向者数	入学意向者数
新潟県	4,609	1,166 (25.3%)	1,102 (23.9%)
福島県	1,115	299 (26.8%)	281 (25.2%)
山形県	1,091	258 (23.6%)	237 (21.7%)
富山県	849	144 (17.0%)	134 (15.8%)

の結果、最終的に 69 校 7,664 名（男性 3,541 名、女性 4,082 名）分の回答を得た（回収率 77.5%）。なお、調査時は、組織の名称を「創生学舎（仮称）」としていたが、ここでは「創生学部」と記述する。

調査では、創生学部に関するリーフレット【資料 1】を添付し、創生学部に対して、受験してみたいか尋ねたところ、「受験してみたい」と回答した人（以下、受験意向者とする）は、有効回答のうち 24.4%にあたる 1,867 名であった。また、合格したら入学したいかという問いに対して、「入学したい」と回答したのは 1,754 名であった（以下、入学意向者とする）。これは、受験意向者のうち 93.9%にあたり、全回答者から見ても 22.9%にあたる人数である。この受験意向者の割合は、新潟県内の高校生のみではなく、表 1 に示したように近隣の山形県や福島県、富山県などの高校でも同様の値が得られており、高校生から十分な数の受験・入学意向を得られていると判断される。

また、回答者が現在所属しているクラスのコース（文系・理系）別に集計を行ったところ、「受験してみたい」と回答したのは、文系では 4,031 名のうち 24.6%にあたる 992 名、理系では 3,264 名のうち 20.5%にあたる 669 名であった（図 1）。生徒の所属コースの文系・理系いずれかに極端に偏ることなく受験意向を得られていることから、創生学部の持つ総合的な学びという特徴が、高校生の興味関心やニーズに合致していると推察される。

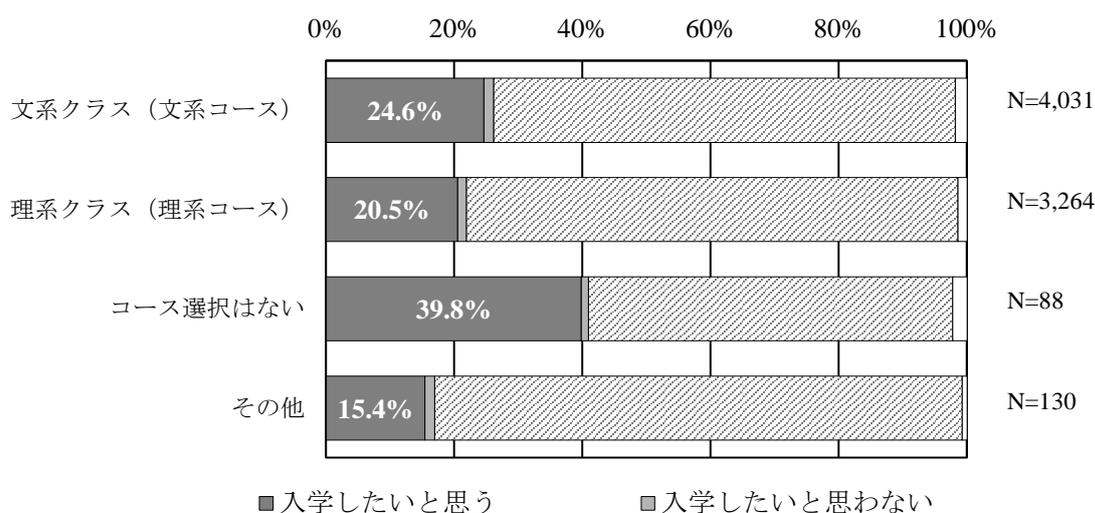


図 1 回答者の所属コース別の受験意向

表 2 各分野を「興味がある」と回答した人数

	受験意向者 N=1,867	全体 N=7,664
文学	648 (34.7%)	2,036
経済・経営・商学	480 (25.7%)	1,485
教員養成・教育学	435 (23.3%)	1,444
工学	322 (17.2%)	1,321
国際関係学	315 (16.9%)	933
語学	304 (16.3%)	998
社会学	287 (15.4%)	759
法学	267 (14.3%)	826
理学	260 (13.9%)	1,008
看護・保健学	243 (13.0%)	1,178
芸術学	196 (10.5%)	831
医・歯・薬学	194 (10.4%)	986
生活科学	185 (9.9%)	775
農・水産学	147 (7.9%)	507
総合科学	59 (3.2%)	144
その他	44 (2.4%)	285
まだ決めていない	28 (1.5%)	127
無回答	7 (0.4%)	42

() 内は受験意向者全体 (1,867 名) に占める割合

次に、受験意向者がどのような学問分野に興味を持っているのかを確認するため、複数回答可の形で、興味のある学問分野を尋ねた (表 2)。その結果、受験意向者が、最も多く興味があるとの回答していた分野は「文学 (心理学, 考古学, 地理学, 歴史学, 哲学等を含む)」であり、受験意向者 1,867 名のうち 34.7%にあたる 648 名が「文学」を挙げていた。次いで「経済学・経営学・商学」の 25.7% (480 名), 教育学の 23.3% (435 名), 工学の 17.2% (322 名) であった。人文・社会科学系の分野を挙げる人が多いものの, 理学 (14.9%, 240 名) や看護・保健学 (13.1%, 211 名) などに対しても, 関心を持っている人が多数いることが分かる。

また、創生学部が持つ特色のうち以下の 4 点を挙げて紹介し、それぞれ「どの程度魅力を感じるか」についても尋ねた。

特色 A 「学内も学外も全てが学びの場」

様々な課題を材料として、キャンパス外での学習も実施。調査分析・解決策の提案を通じて、企画する力を磨く

特色 B 「個人を輝かせる少人数指導」

教員・多様な仲間とのコミュニケーションの中で、一人一人の個性を伸ばす学習を実施

特色 C 「新潟大学を丸ごと活用した総合的な学び」

総合大学の全ての授業科目を使って自分が求める総合力と人間力を身につける)

特色 D 「卒業後の活躍先」

高い企画力と調整能力を発揮できる人材，広い視野と深い洞察力を持って粘り強く研究できる人材として活躍

その結果，いずれの特色も，全回答者のうち 80%以上の人々が「とても魅力を感じる」もしくは「ある程度魅力を感じる」と回答していた。「とても魅力を感じる」と答えた人の割合は，A「学内も学外もすべてが学びの場」で 26.3%，B「個人を輝かせる少人数教育」で 38.2%，C「新潟大学を丸ごと活用した総合的な学び」で 35.7%，D「社会で活躍できる人材に」で 41.9%であった。いずれも高い評価を得られていることから，あらためて高校生のニーズを適切に反映できていることが示唆される。今後，創生学部のもつこれらの特色を広く発信していくことで，多くの潜在的な志願者も開拓可能であると考えられる。

1.1.3. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

調査概要

調査は，外部機関に委託し，平成 28 年 1 月 18 日～平成 28 年 2 月 9 日に実施された【資料 2】。対象としたのは，新潟県，山形県，福島県，富山県の主な高校 73 校の 2 年生であり，在籍コース（文系・理系），興味のある学問系統，特色に対する魅力度，受験意向，入学意向についてそれぞれ質問を行った。

回答者の属性

最終的に 69 校 7,664 名（男性 3,541 名，女性 4,082 名）分の回答を得た（回収率 77.5%）。回答者の所属高校の所在地は，新潟県 4,609 名，福島県 1,115 名，山形県 1,091 名，富山県 849 名であり，所属コースは「文系」4,031 名，「理系」3,264 名，「コースなし・その他」218 名であった。

調査結果

各問いの回答（全体，受験意向者のみ）は，表 3 の通りであった。

1.1.4. 学生納付金の設定の考え方

本学の初年度納付額は，817,800 円（授業料 535,800 円，入学金 282,000 円）であり，近隣の国立大学法人与同額である。

表3 定員充足の根拠となる調査の結果概要

	全体	受験意向者
	7,664	1,867
性別		
男性	3,541	937
女性	4,082	922
高校所在地		
新潟県	4,609	1,166
福島県	1,115	299
山形県	1,091	258
富山県	849	144
在籍コース		
文系クラス（文系コース）	4,031	1,055
理系クラス（理系コース）	3,264	714
コース選択はない	88	36
その他	130	22
興味のある学問系統		
文学	2,036	648
語学	998	304
法学	826	267
経済・経営・商学	1,485	480
社会学	759	287
国際関係学	933	315
教員養成・教育学	1,444	435
生活科学	775	185
芸術学	831	196
総合科学	144	59
看護・保健学	1,178	243
医・歯・薬学	986	194
理学	1,008	260
工学	1,321	322
農・水産学	507	147
創生学舎の特色に対する魅力度 （とても魅力を感じる＋ある程度魅力を感じる）		
特色A	6,380	1,793
特色B	6,639	1,777
特色C	6,520	1,823
特色D	6,756	1,819
受験意向		
受験したいと思う	1,867	1,867
受験したいと思わない	5,671	—
入学意向		
入学したいと思う	1,754	1,754
入学したいと思わない	112	112

1.2. 学生確保に向けた具体的な取り組み状況（予定）

創生学部設置に向けて、理事（教育担当，企画・評価担当）のリーダーシップのもと，広報室と入学センターおよび現在本学に在籍している専任教員が一体となって広報活動を行う。創生学部の特色を広く発信していくことによって，多くの潜在的な志願者も開拓可能であると考えられることから，様々な媒体を通して積極的に情報を発信していく。具体的には，以下の取り組みを予定している。

1.2.1. ウェブサイトやパンフレットによる広報

創生学部のウェブサイト平成 28 年 4 月 1 日に立ち上げ，3 つのポリシーや特色ある教育システムなどの情報発信を開始するとともに，高校訪問や進学説明会等で寄せられた質問などへの回答も定期的に追加・更新する FAQ ページも作成し，創生学部の特色が多くの人に理解されるようにする。これらの情報の拡散・浸透を図るため，SNS（Facebook，YouTube など）やパンフレットからの誘導（クロスメディア）や，スマートフォンからのアプローチに対しても快適に閲覧できる環境を構築する。

1.2.2. オープンキャンパス

本学では，例年 8 月上旬に 2 日間の日程でオープンキャンパスを開催しており，平成 28 年度も同様の日程で開催する予定である。オープンキャンパスは，近年は 2 日間で延べ 15,000 人以上の参加者があり，多くの受験生及び保護者，高校の教員などが，直接本学の情報や雰囲気に触れる貴重な機会となっている。

例年，オープンキャンパスでは，学部ごとにも説明会・模擬講義などを実施しているが，平成 28 年度から創生学部でも独自の企画を立て，広報活動を行うことを計画している。具体的には，説明会の形式で教育の特長や入試科目，想定される卒業後の進路について紹介するとともに，個別相談対応のブースを設け，一人ひとりの疑問にも答えられるようにする。また，模擬講義も実施し，受験生・高校生に創生学部での学びについて具体的なイメージを形成してもらえようとする。

1.2.3. 高校訪問

創生学部は，従来の学部とは異なる特徴を持つ教育組織である。そのため，その違いについて受験生・高校生が疑問や不安を感じた際に，創生学部についての情報を有している人が身近にいることは非常に重要であると考えられる。そこで，高校生の進路相談における身近な存在として，進路指導教諭をメインターゲットとした広報活動を行う。まず挙げられるのが高校訪問である。具体的には，本学専任教員と職員とがペアになり高等学校を訪問することで，本学や創生学部についての説明や情報交換を行う。訪問対象は，新潟県内を中心に，本学志願者の多い山形県，福島県，富山県，長野県，秋田県，群馬県，栃木県の主な高校を予定している。

1.2.4. アドミッションフォーラム

前項の高校訪問と同様に高等学校教員をターゲットとした広報活動として、進路指導担当の教諭等を本学に招聘して実施している説明会（アドミッションフォーラム）も活用して広報を行う。アドミッションフォーラム内で、創生学部について詳しく説明する時間を設け、特徴や入試について情報提供を行うとともに、個別懇談の場を利用し、本学専任教員が個々の質問にも対応できるようにする。

なお、アドミッションフォーラムは、新潟県内の高等学校を対象にしたものを7月下旬に、新潟県外の高等学校を対象としたものを8月下旬に実施する予定である。

2. 人材需要の動向等社会の要請

2.1. 養成する人材像や教育研究上の目的

創生学部では、社会の中軸で活躍する人材である「自己創造型学修者」を社会に送り出すことを主要な教育目的としている。自己創造型学修者として必要な資質を以下の4点として、その育成に必要なカリキュラムを整備した。

- (i) 課題を発見し、その解決に向けて主体的に学修する態度・姿勢
- (ii) 課題解決に必要な分析力・論理的思考力
- (iii) 他者と協働できる自己表現力を有し、問題解決を調整する能力
- (iv) 専門領域の知識を有するとともに、多面的な視点から複数分野の知識を選択的に統合し、課題解決の場をデザインする能力

21世紀は知識基盤社会と云われている。そこで重要なのは、単に知識を保持していること、保持している知識を活用することではない。知識そのものが不断に変化していく社会の中で活躍するために重要な能力は、多面的社会状況の中から課題を抽出し、その解決に必要な知識を特定し、獲得し、課題に適用して、課題解決、あるいは次の課題の設定に繋げていくことが出来る能力である。そして、そうした作業を他者とともに進めていける能力である。それらの能力を備えた学修者を「自己創造型学修者」と呼ぶ。

したがって、自己創造型学修者は単なる「学修する人」を意味するわけではない。それは、社会の様々な分野で、指導者・牽引者としてチームを先導していく人、調整者としてチーム全体をまとめる人、チームの一員として確かな役割を果たす人など、それら全ての場面で機能していく専門職業人としての人材要素である。グローバルな場面、あるいはローカルな場面、官庁や地方自治体あるいは様々な業種の企業などで、企画・調整の役割を担っていける人材である。また、さまざまなステークホルダーと協働して、おかれた状況下で柔軟に仕事を果たしていく人材、あるいは大学院に進学してさらに特定専門分野での研鑽を積んで、新規の領域を開拓していく先導的研究者としての活躍も十分期待できる。

2.2. 養成する人材像に対する社会的ニーズの客観的な根拠

創生学部で養成しようとしている人材像が、実際にどの程度社会的ニーズと一致しているかを確認する上で、一つ目の根拠となるのが地域社会からの要望である。創生学部で行おうとしている新しい人材養成に関して、新潟県および新潟市からは、設置に対する強い要望が寄せられている【資料3、資料4】。これらは、創生学部の養成しようとしている人材や取り組もうとしている課題が、自治体の現状や目指す方向性とも符合していることを示していると考えられる。よって、創生学部には、社会的・地域的なニーズが十分にあることがわかる。

また、自治体だけではなく、産業界からのニーズを測ることも重要である。そこで二つ目の根拠として、本学卒業生の採用実績がある企業・団体に依頼し、実施した調査の結果を示す【資料 5】。

調査は、本学が委託した外部組織によって行われ、対象としてリストアップされた 800 社に対して、調査票を郵送する形で実施された。その結果、最終的に 336 件の回答が得られた（回収率 42.0%）。回答を得られた企業・団体は、新潟県内のものが最も多く、214 社（回答全体の 63.7%）が新潟県内に本社がある企業であった。次いで、長野県（35 社、10.4%）、富山県（27 社、8.0%）の企業が多かった（表 4）。従業員数は、「100 名～500 名」が全体の 41.1%を占め、最も多くなっていた。この他、「50 名未満」（19.9%）から「5,000 名以上」（3.3%）まで、様々な規模の会社が含まれていた。業種についても、製造業が 31.3%、建設業が 17.3%、卸売・小売業が 12.5%、情報通信業が 8.6%、サービス業が 8.0%など、多様な業種が含まれていた。

まず、これらの企業に対して、創生学部が社会的に必要だと思うかについて尋ねたところ、「必要だと思う」が 303 件（90.2%）であり、非常に多くの企業が社会的な必要性を認める回答をしていた（図 2）。

次に、創生学部のもつ 4 つの特色（高校生向けの調査と同一の 4 項目）について、どの程度魅力を感じるかを尋ねたところ、いずれの項目も「とても魅力を感じる」と回答する企業が 4 割以上を占めており、評価が高いことが読み取れる。その中でも最も評価が高かったのは「学内も学外も全てが学びの場」であり、「とても魅力を感じる」と回答したのが 162 社（48.2%）であった。次いで「卒業後の活躍先」154 社（45.8%）、「新潟大学を丸ごと活用した総合的な学び」137 社（40.8%）、「個人を輝かせる少人数指導」139 社（41.4%）であった。

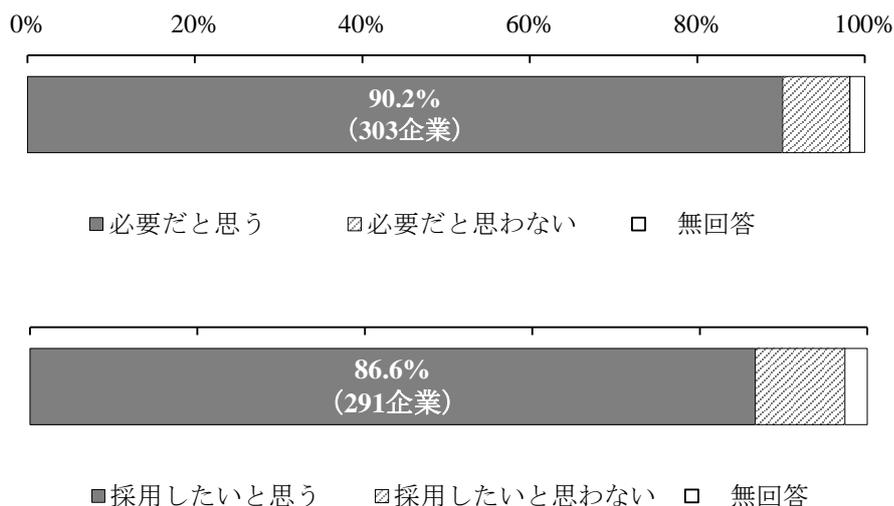


図 2 創生学部の社会的必要性および、卒業生の採用意向

また、創生学部の卒業生を採用したいと思うか尋ねたところ、「採用したいと思う」が 291 件で 86.6%であった（図 2）。また、毎年の採用想定人数について尋ねたところ、「1名」64 件、「2名」22 件、「3名」10 件、「4名」0 件、「5名～9名」1 件、「10名以上」1 件、「人数は未確定」193 件で、これらを合計すると、採用想定人数は 346 名であった。これは創生学部の定員 65 名を大幅に上回っている。

これら二つの根拠から、創生学部の教育的な特色に対する企業や自治体の評価も高く、企業からの卒業生を採用したいというニーズも十分に高いことがうかがえる。これは、創生学部で育成する人材像が、自治体・企業の求める人材像とも一致しており、創生学部が社会のニーズに対応した人材育成プログラムであることを示唆していると言える。

表4 創生学部に対する社会的ニーズに関する調査の結果概要

	人数
	336
所在地	
新潟県	214
長野県	35
富山県	27
福井県	16
東京都	13
その他	26
業種	
農・林・漁・鉱業	3
建設業	58
製造業	105
電気・ガス・熱供給・水道業	1
情報通信業	29
運輸業	3
卸売・小売業	42
金融・保険業	15
不動産業	2
飲食店・宿泊業	5
医療・福祉	2
複合サービス事業	1
サービス業	27
公務	27
規模	
50名未満	67
50名～100名未満	46
100名～500名未満	138
500名～1,000名未満	38
1,000名以上	45
社会的必要性	
必要だと思う	303
必要だと思わない	27
採用意向	
採用したいと思う	291
採用したいと思わない	36

資 料 目 次

- 資料 1 創生学部に関するリーフレット

- 資料 2 新潟大学「創生学舎」（仮称）
設置に関するアンケート調査
【高校生対象調査】結果報告書

- 資料 3 要望書【新潟県】

- 資料 4 要望書【新潟市】

- 資料 5 新潟大学「創生学舎」（仮称）
設置に関するアンケート調査
【企業対象調査】結果報告書

キミが切り拓く未来∞を応援します!!



新潟大学 創生学舎

平成29年4月設置構想中(定員65名)

• College of Liberal Studies, Niigata University •

創生学舎では、専門領域を持った教授から学ぶだけではなく、

自分で「問題発見や解決法を導き出す力」を育てます。

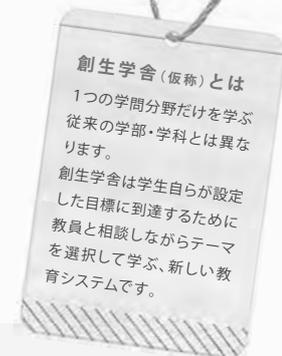
学内外での体験・協働を通じて、教授や仲間とともに

「新しい学びのスタイル」を創ってゆきます。

社会に出てからも様々な可能性にチャレンジする

「グローバル化した社会で活躍できる強い自分」へと成長するための

“確かな能力”と“生き抜く自信”を身につけます。



POINT 創生学舎の特色

学内も学外も全てが学びの場

キャンパス内に留まらず、社会で生じる様々な課題も重要な学習の材料です。調査分析・解決策の提案を通じて、企画する力を磨きます。

個人を輝かせる少人数指導

創生学舎の授業は少人数教育を徹底します。教員・多様な仲間とのコミュニケーションの中で、一人一人の個性を活かした学習が実現できます。

新潟大学を丸ごと活用した総合的な学び

総合大学の全ての授業科目を使って自分が求める力を身につけることができます。自立した社会人として活躍するための人間力を育みます。

POINT 想定される活躍先

高い企画力と調整能力を発揮

例) 企業人として新たな価値を創造
公務員として社会を牽引

広い視野と深い洞察力を持って粘り強く研究

例) 大学院で専門性を深め、技術者として革新的な開発に従事
研究者として複数の専門領域からのアプローチ

POINT 創生学舎で身につく力

コミュニケーション能力

関心あるテーマに仲間と協働して取り組む活動の中で、相手の意見を聞き入れながら、自身の考えを表現する力が身につきます。

企画・行動力

自らの課題を見つけ解決していく授業を通して、自分から積極的に働きかける力や未知の世界に踏み出す力が身につきます。

グローバルに活躍できる力

外国語運用能力に基づき、広い視野をもって国際化する社会で活躍するために必要な適応力が身につきます。



新潟大学

POINT 多方面からの見方と知識を身につけて社会の問題解決に挑む!

創生学舎

問題解決に必要な技能を身につけ、関連する専門領域を選択して学びます。



POINT 確かな自分を創る4年間

- 4年次
 - 総合的に課題解決に向かう実践力
 - 大学院進学に備えた研究力
- 3年次
 - 専門領域を深める集中的な学習
 - データを使って課題の本質を解釈
- 2年次
 - グローバルに活躍するための語学力
 - 課題を把握・分析する技術
- 1年次
 - 物事にチャレンジする態度・姿勢
 - 学び続ける習慣づくり

POINT 特徴的な講義

- ソリューションラボ**
課題を把握分析する力や専門分野の知識などを総合的に活用し、チームで課題解決を実践します。
- 専門領域を学ぶ授業科目群**
課題解決に必要な学問的な知識、技能やそれらを活用する力を身につけます。
- リテラシーデザイン**
課題に対して、多方面からの見方や分析法を学び、全体を把握できる力を育みます。
- 学外学習プログラム**
社会における課題を踏まえて、学外(産業界、地域、海外)に出て、現代社会を体験します。



新潟大学
創生学舎(仮称)設置準備室

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地
TEL 025-262-7502・6695 / FAX 025-262-6248
sousei@adm.niigata-u.ac.jp

五十嵐キャンパスまでのアクセス

- バス** | 新潟駅方代口バスターミナルのりば7番線より「新潟大学経由内野営業所行」または「西小針経由新潟大学行」乗車→「新大正門」または「新大中門」、「新大西門」(約45分)下車後、徒歩約1分
- 在来線** | JR越後線「新潟大学前駅」下車後、徒歩約15分

設置構想中のため、募集人員等の内容は変更となる場合があります。

新潟大学「創生学舎」(仮称)
設置に関するアンケート調査
【高校生対象調査】
結果報告書

平成28年3月
株式会社 進研アド
1

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2017年4月開設予定の「新潟大学 創生学舎」の新設構想に関して、高校生のニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		山形県、福島県、新潟県、富山県
調査方法		高校留め置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校)	9,886 (73校)
	回収数 (回収率)	7,664 (69校) (77.5%)
調査時期		2016年1月18日(月)～2016年2月9日(火)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
・性別
・高校種別
・高校所在地
・所属クラス
・高校卒業後の希望進路
・興味のある学問系統
・「創生学舎」の特色に対する魅力度
・「創生学舎」への受験意向
・「創生学舎」への入学意向

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※ 本調査は、新潟大学で設置構想中の「創生学舎」に対する需要を確認する目的の調査として設計したため、新潟大学の主な学生募集エリアである山形県、福島県、新潟県、富山県に所在する高校の高校2年生(設置年度に入学対象の学年)に調査を実施し、7,664人から回答を得た。

- 回答者の性別は「男性」が46.2%、「女性」が53.3%。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が87.1%、「私立」が12.9%。
- 回答者の在籍高校所在地は、新潟大学の学生募集の中心である「新潟県」が60.1%で最も多い。
- 回答者の所属クラスは、「文系クラス(文系コース)」が52.6%で最も多い。次いで、「理系クラス(理系コース)」が42.6%。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ「国立大学に進学」が73.0%で最も高い。次いで、「公立大学に進学」が35.7%。国立大学への進学志望者が多いことから、創生学舎が今後ターゲットとする対象に調査を実施できていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統は「文学」(26.6%)が最も高く、次いで「経済・経営・商学」(19.4%)、「教員養成・教育学」(18.8%)が高い。

高校生対象 調査結果まとめ

「創生学舎」の特色に対する魅力度

- 「創生学舎」の特色に対する魅力度(※)は、全ての特色で8割を超える。
- 中でも、「卒業後は、高い企画力と調整能力を発揮できる人材(企業人・公務員)、広い視野と深い洞察力を持って粘り強く研究できる人材(大学院進学・研究者)として活躍することが想定されます。」に対する魅力度は88.2%で、特色4項目中最も高い。次いで、「教員・多様な仲間とのコミュニケーションの中で、一人一人の個性を活かした学習が実現できます。」(86.6%)が高い。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

「創生学舎」への受験意向・入学意向

- 「創生学舎」を「受験したいと思う」と答えた人は24.4% (1,867人)である。
- 「創生学舎」を「受験したいと思う」と答えた1,867人のうち「入学したいと思う」と答えた人は93.9% (1,754人)で、予定されている入学定員(65人)を大きく上回る。

高校生対象 調査結果まとめ

受験意向別入学意向 属性別傾向

◇性別

- 「創生学舎を「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と答えた人（以降下線部を「入学意向者」と表す）は「女性」21.2%（**864人**）より「男性」24.9%（**883人**）の方が3.7ポイント高い。

◇高校所在地別

- 学生募集の中心である「新潟県」の高校在籍者からの創生学舎への入学意向者は23.9%（**1,102人**）と、地元「新潟県」の高校生に限った場合でも、予定されている入学定員（65人）を大きく上回る入学意向者が見られた。「福島県」「山形県」「富山県」の高校在籍者からの創生学舎への入学意向者はそれぞれ25.2%（**281人**）、21.7%（**237人**）、15.8%（**134人**）であった。

◇在籍コース別

- 「文系クラス（文系コース）」在籍者からの創生学舎への入学意向者は24.6%（**992人**）、「理系クラス（理系コース）」在籍者からの創生学舎への入学意向者は20.5%（**669人**）と、どちらのコースにおいても予定されている入学定員（65人）を大きく上回る。

◇希望進路別

- 新潟大学を受験・入学する可能性が高い「国立大学に進学」希望者からの創生学舎への入学意向者は25.9%（**1,449人**）と、「国立大学に進学」希望者に限った場合でも、予定されている入学定員（65人）を大きく上回る入学意向者が見られた。

◇興味学問系統別

- 文理を問わず、どの学問系統の関心者においても2割弱から4割弱の入学意向者が見られる。中でも「社会学」「総合科学」関心者は創生学舎への入学意向者はそれぞれ34.8%（**264人**）、37.5%（**54人**）と比較的高く、「文学」「語学」「法学」「経済・経営・商学」「国際関係学」「教員養成・教育学」「農・水産学」関心者も創生学舎への入学意向者が25%以上と高い。

高校生対象 調査結果まとめ

受験意向別入学意向 属性別傾向

母数:新潟県の高校に在籍する国立大学進学希望者

◇新潟県の高校に在籍する国立大学進学希望者

- 新潟大学を受験する可能性がより高いと考えられる層の入学意向者の数値を確認するため、「新潟県」の高校在籍者で、かつ「国立大学に進学」希望者に限った場合の数値を確認すると、入学意向者の割合は、2,969人中、28.7% (851人)と、調査対象者全体の22.9%より5.8ポイント高い。また人数は予定されている入学定員(65人)を大きく上回る。

さらに、新潟県の高校に在籍する国立大学進学希望者に限定した場合の詳細な属性別の数値は下記の通り。

□性別

- 新潟県の高校に在籍する国立大学進学希望者で、創生学舎への入学意向者は、「女性」27.3% (397人)より「男性」30.0% (452人)の方が2.7ポイント高い。

□在籍コース別

- 新潟県の高校に在籍する国立大学進学希望者で「文系クラス(文系コース)」在籍者からの創生学舎への入学意向者は34.5% (469人)、「理系クラス(理系コース)」在籍者からの創生学舎への入学意向者は22.8% (335人)と、どちらのコースにおいても予定されている入学定員(65人)を上回る。

□興味学問系統別

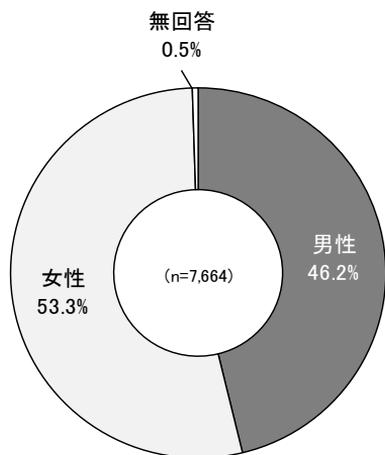
- 新潟県の高校に在籍する国立大学進学希望者は、「社会学」「国際関係学」「総合科学」関心者における創生学舎への入学意向者は、それぞれ44.4% (123人)、41.9% (153人)、46.3% (25人)と4割を超える。「文学」「語学」「法学」「経済・経営・商学」「教員養成・教育学」「農・水産学」関心者も創生学舎への入学意向者が30%以上と高い。

高校生対象 調査結果

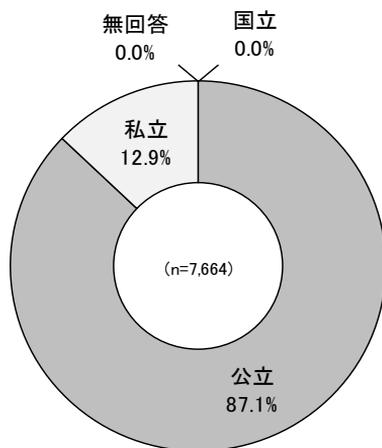


回答者の属性(性別/高校種別/高校所在地/所属クラス)

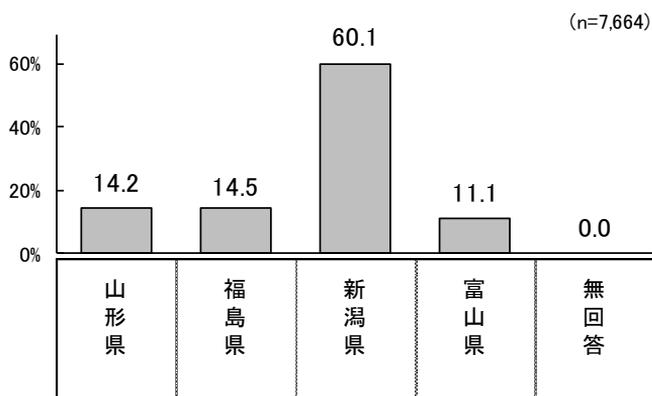
■性別



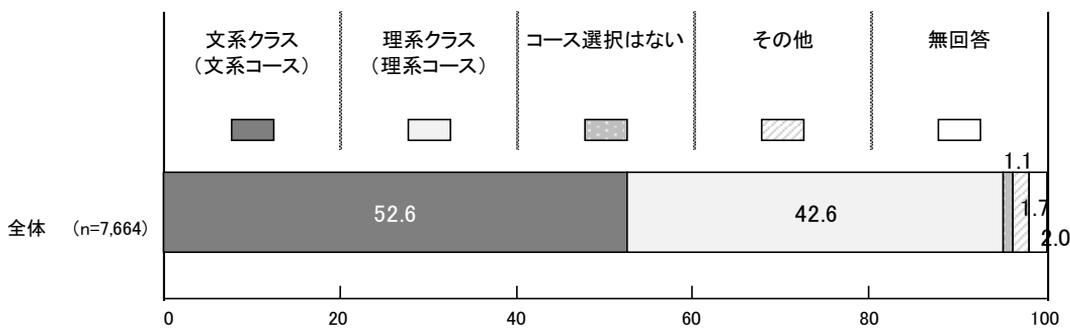
■高校種別



■高校所在地



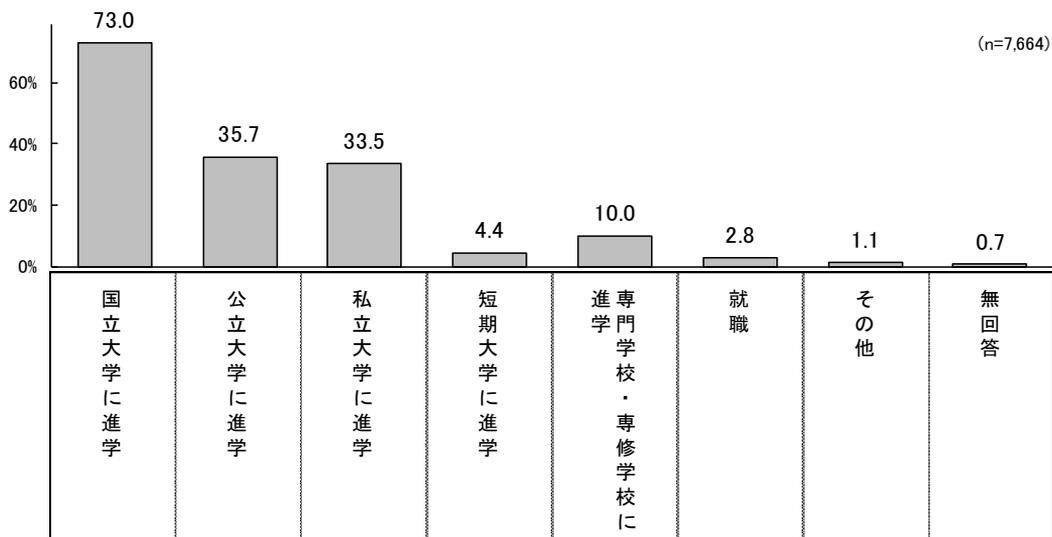
■所属クラス



高校卒業後の希望進路／興味のある学問系統

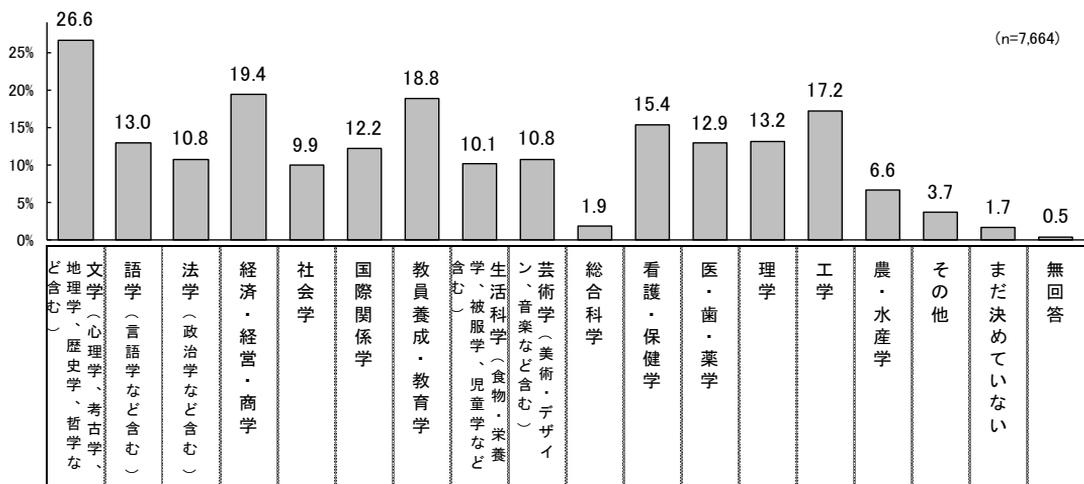
■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまるものすべてをお選びください。(いくつでも)



■興味のある学問系統

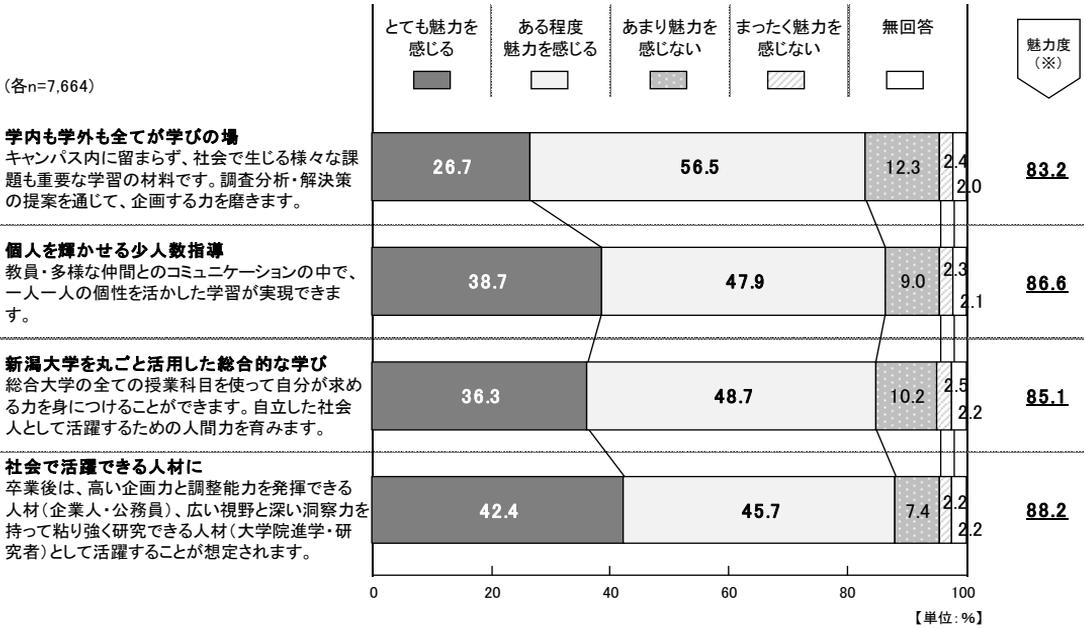
Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。
以下の項目から、興味のある学問系統すべてをお選びください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



「創生学舎」の特色に対する魅力度

■「創生学舎」の特色に対する魅力度

Q3. 新潟大学「創生学舎」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまるものを1つだけ)



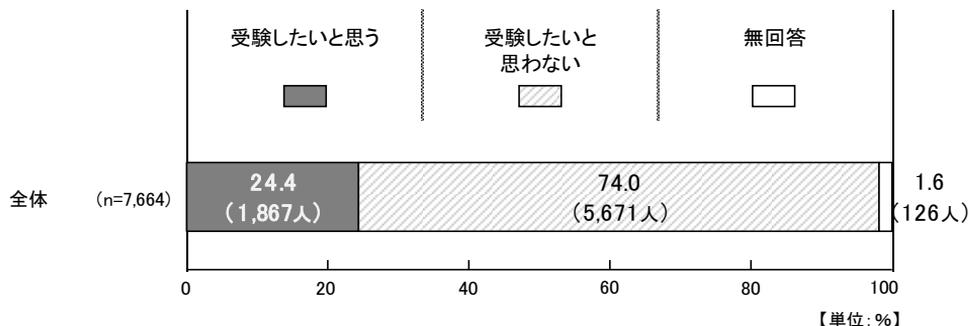
※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

「創生学舎」への受験意向／入学意向

■「創生学舎」への受験意向

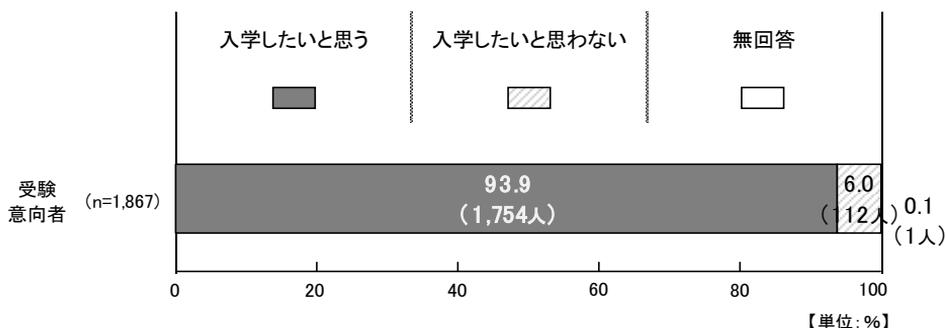
Q4. あなたは、新潟大学「創生学舎」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近いもの1つをお選びください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた1,867人のみ抽出

■「創生学舎」への入学意向

Q5. あなたは新潟大学「創生学舎」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

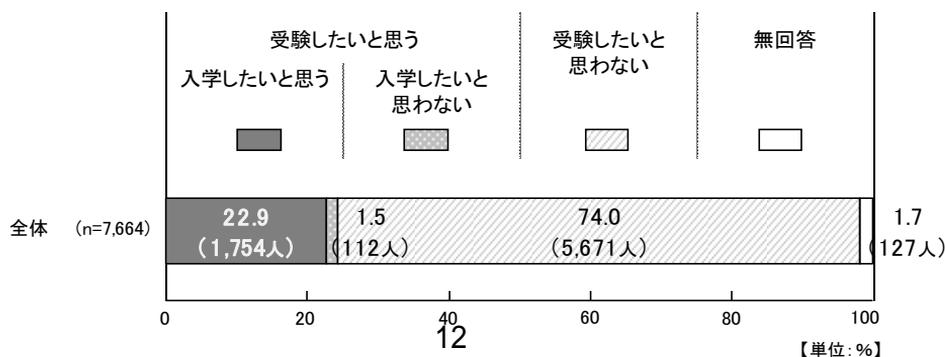


※ Q4で「受験したいと思う」と答えた1,867人の回答



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を
かけあわせて集計(母数は全回答者)

■「創生学舎」への受験意向別入学意向



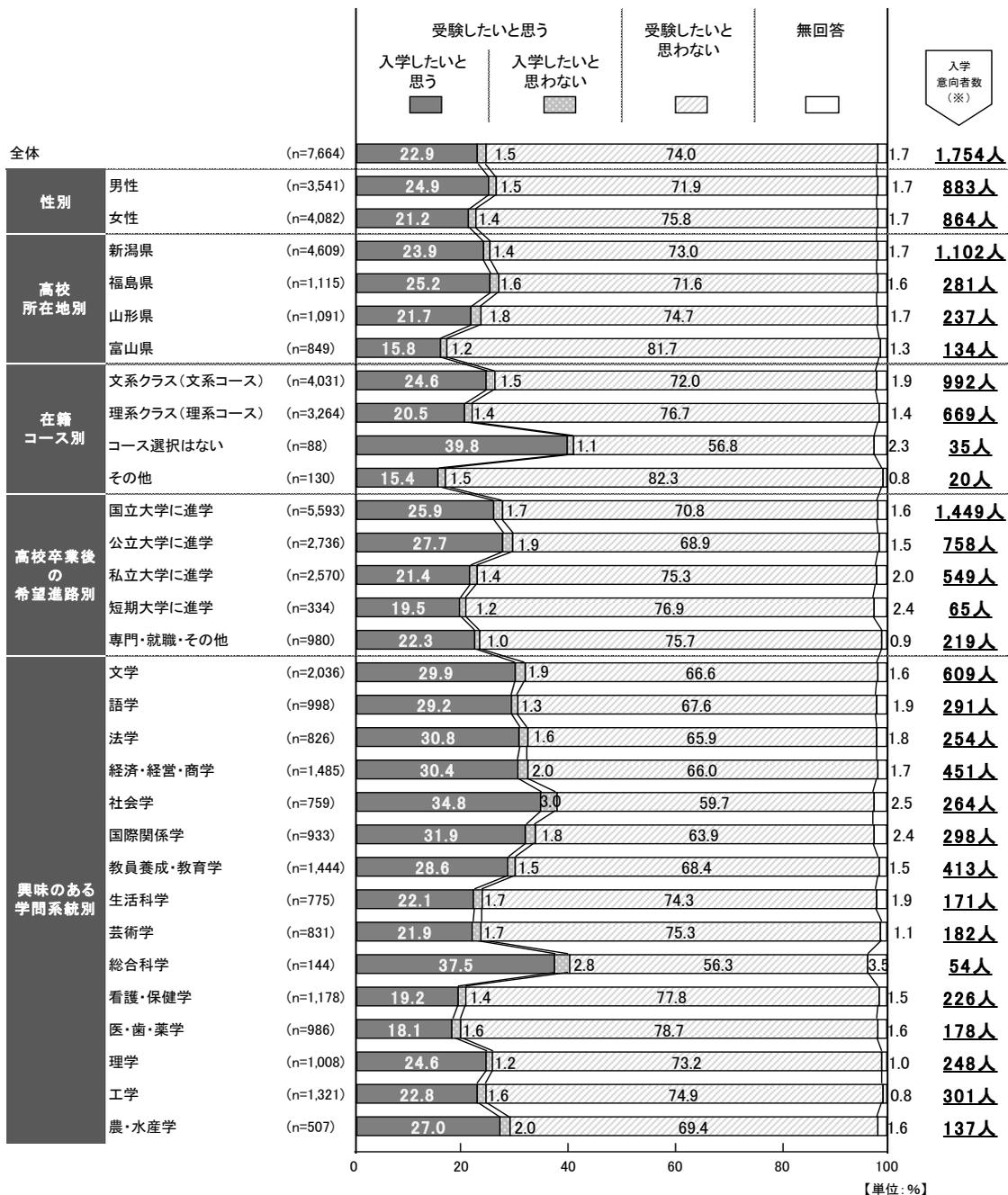
「創生学舎」への受験意向別入学意向

<属性別(母数:全体)>

■「創生学舎」への受験意向別入学意向

母数:全体

<属性別>



※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数

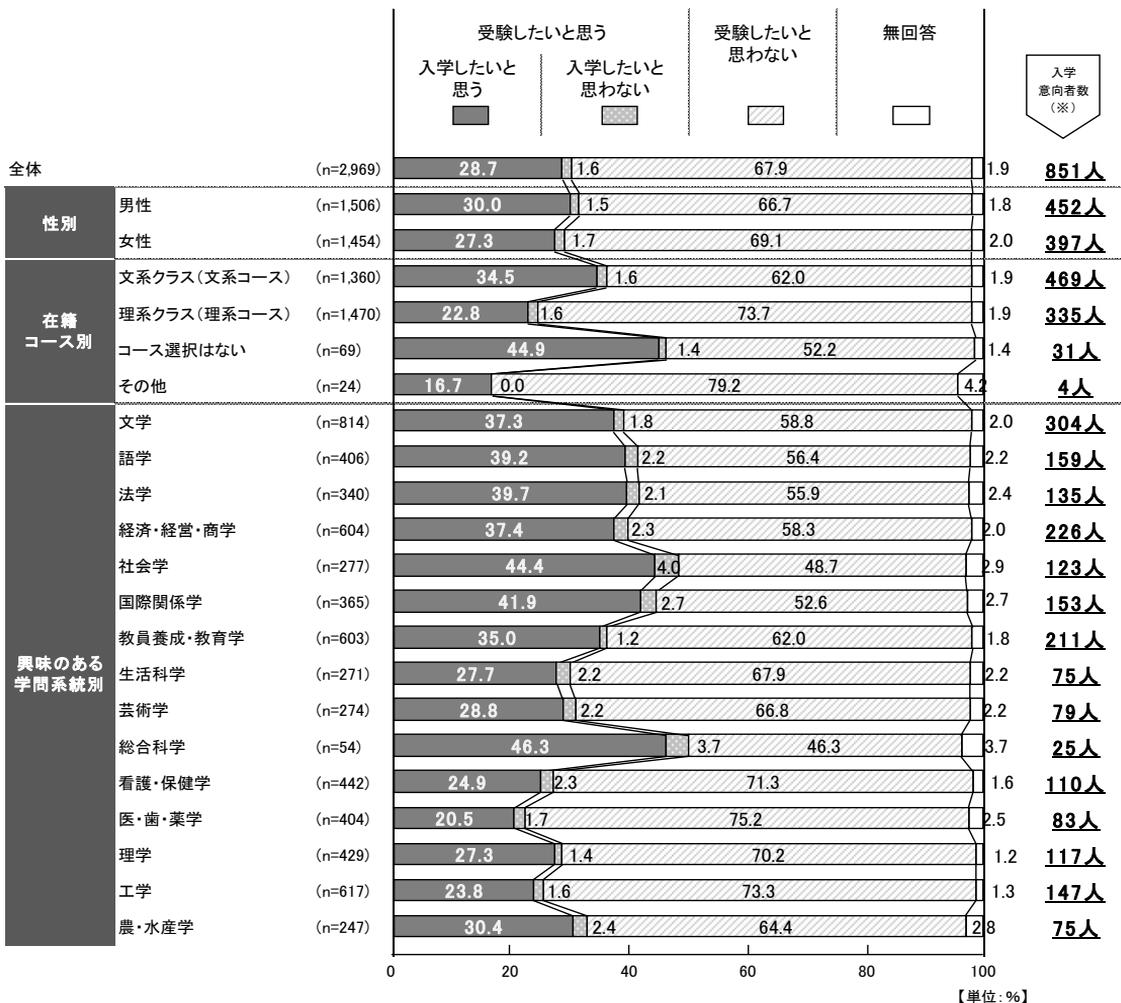
「創生学舎」への受験意向別入学意向

<属性別(母数:新潟県の高校に在籍する国立大学進学希望者)>

■「創生学舎」への受験意向別入学意向

母数:新潟県の高校に在籍する国立大学進学希望者

<属性別>



※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数

卷末資料 調查票



高校生対象 調査票

15054

◆新潟大学「創生学舎」(仮称、設置構想中)についてお聞きます。

新潟大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2017年(平成29年)4月に、新しく「創生学舎」(仮称)を設置することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q3. 新潟大学「創生学舎」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまるものを1つだけ)

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
例.	〇〇が身につきます。	→ <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
A.	学内も学外も全てが学びの場 キャンパス内に留まらず、社会で生じる様々な課題も重要な学習の材料です。調査分析・解決策の提案を通じて、企画する力を磨きます。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
B.	個人を輝かせる少人数指導 教員・多様な仲間とのコミュニケーションの中で、一人一人の個性を活かした学習が実現できます。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C.	新潟大学を丸ごと活用した総合的な学び 総合大学の全ての授業科目を使って自分が求める力を身につけることができます。自立した社会人として活躍するための人間力を育みます。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
D.	社会で活躍できる人材に 卒業後は、高い企画力と調整能力を発揮できる人材(企業人・公務員)、広い視野と深い洞察力を持って粘り強く研究できる人材(大学院進学・研究者)として活躍することが想定されます。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q4. あなたは、新潟大学「創生学舎」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに一番近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

- 受験したいと思う 受験したいと思わない

Q5. あなたは新潟大学「創生学舎」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

- 入学したいと思う 入学したいと思わない

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

平成 28 年 3 月 9 日

国立大学法人
新潟大学長 高橋 姿 様

新潟県知事 泉田 裕彦



新潟大学創生学舎（仮称）設置に関する要望書

日頃、県政の推進につきまして御理解、御協力をいただくとともに、地域に開かれた総合大学として、積極的な地域貢献を進めておられることに深く感謝申し上げます。

さて、本県の人口は、平成 9 年をピークに平成 10 年以降 18 年連続で減少しております。社会動態をみると、転出超過が拡大傾向にあり、特に、大学進学時と卒業後の就職時に首都圏等へ多くの若者が流出している現状があることから、次代を担う若者の流出防止が大きな課題となっております。

こうしたなか、貴学において構想されている創生学舎（仮称）は、人口問題をはじめとする国内外、地域社会における喫緊かつ恒常的な諸課題を学修テーマの中心に据え、様々な学問領域からのアプローチを修得しながら、複眼的な視野を持って問題解決を実践できる人材の養成を目指すものであり、誠に時宜を得たものと考えております。

さらに、大学の教育充実と魅力向上は、県内外から多くの学生を呼び込むとともに、地域課題の学修を通じて、卒業後の県内定着も期待できることから、地域に必要な人材の確保や人口の社会減対策など地方創生の観点からも期待を寄せているところです。

このような状況にかんがみ、貴学におかれまして、新たな創生学舎（仮称）の設置が早期に実現されますよう強く要望いたします。

平成 28 年 3 月 9 日

国立大学法人 新潟大学

学長 高橋 姿 様

新潟市長 篠田 昭



新潟大学「創生学舎（仮称）」早期設立に関する要望書

早春の候、貴職におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、貴学におかれましては、自律と創生を全学の理念とされ、教育と研究を通じて、地域や世界の着実な発展に貢献する優秀な人材を、これまで多数輩出されるとともに、本市の発展に多大なる貢献をいただいておりますことに深くお礼申し上げます。

さて、人口減少、少子・超高齢社会の到来を背景に、本市が昨年とりまとめた「新潟市人口ビジョン」によれば、将来的にも出生率などがこれまでと同様に推移した場合には、2040年の本市人口は約67万人と推計されます。

このような人口減少や人口構成の変化は、消費市場や事業活動の縮小といった地域経済への影響をはじめ、安心安全なまちづくりに欠かせない地域コミュニティの縮小といった地域活力の衰退などを招くものと懸念しています。

一方で、産官学金労言をはじめとする新潟の総力を結集しながら、本市の総合計画「にいがた未来ビジョン」及び「新潟市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を着実に推進していくことで、市民が理想とする子どもの数を実現できた場合には、2040年の本市人口を約74万人に押し上げることが可能と推計しています。

人口減少を克服し、地方創生の取組みを推進していくためには、地域の特性や複数の学問分野を学修し主体的に問題解決策を導き出す、地域に根差した人材や、俯瞰的な視野をもってグローバル化する社会で活躍し、地域に活力を呼び込む人材が求められています。

貴学は、本県並びに本市唯一の総合大学であり、本地域を先導する高等教育機関として、その役割に一層期待を寄せるところであることから、このような地方創生人材の育成を目指した教育システムを構築され、その学びの場となる新たな教育組織「創生学舎（仮称）」を早期に設立くださいますよう要望いたします。

新潟大学「創生学舎」(仮称)
設置に関するアンケート調査
【企業対象調査】
結果報告書

平成28年3月
株式会社 進研アド
1

企業対象 調査概要

1. 調査目的

2017年4月開設予定の「新潟大学 創生学舎」の新設構想に関して、企業の人材ニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査
調査対象		企業の人事関連業務担当者
調査エリア		岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、 栃木県、埼玉県、東京都、新潟県、富山県、 石川県、福井県、長野県、大阪府
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	800社
	回収数(回収率)	336社(42.0%)
調査時期		2016年1月18日(月)～2016年2月9日(火)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業対象調査
・人事採用への関与度
・本社所在地
・業種
・従業員数
・正規社員の平均採用人数
・本年度の採用予定数
・採用したい学問系統
・「創生学舎」の特色に対する魅力度
・「創生学舎」の社会的必要性
・「創生学舎」卒業生の採用意向
・「創生学舎」卒業生の毎年の採用想定人数

企業対象 調査結果まとめ



企業対象 調査結果まとめ

回答企業(回答者)の属性

※ 本調査は、新潟大学で設置構想中の「創生学舎」に対する人材需要を確認する目的の調査として設計したため、新潟大学卒業生が就職している、もしくは就職先として想定される企業・団体の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、336企業から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は22.9%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が63.1%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社所在地は新潟大学の所在地である「新潟県」が63.7%と最も多い。
- 回答企業の業種としては「製造業」が31.3%と最も多く、次いで「建設業」が17.3%、「卸売・小売業」が12.5%と多い。
- 回答企業の正社員・職員数は「100名～500名未満」が41.1%で最も多い。

回答企業の採用状況(過去3か年)

- 回答企業の平均的な正規社員の採用人数は、「1～5名未満」が40.2%で最も多い。次いで、「5～10名未満」が18.5%、「10～20名未満」が15.2%。
- 回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が60.7%で最も高い。次いで、「増やす」が25.6%で高く、昨年以上の採用が予定されている様子。
- 回答企業の採用したい学問系統は、「工学系統」が52.4%で最も高く、次いで「学部や学問系統にはこだわらない」(39.3%)、「経済・経営・商学系統」(30.7%)と続く。

企業対象 調査結果まとめ

「創生学舎」の特色に対する魅力度

- 「創生学舎」の特色に対する魅力度(※)は、全ての特色で8割を超える。
- 中でも、「社会で生じる様々な課題を材料として、キャンパス外での学習も実施します。調査分析・解決策の提案を通じて、企画する力を磨きます。」が94.6%で最も高い。次いで、「卒業後は、高い企画力と調整能力を発揮できる人材(企業人・公務員)、広い視野と深い洞察力を持って粘り強く研究できる人材(大学院進学・研究者)として活躍することが想定されます。」(90.5%)、「総合大学の全ての授業科目を使って自分が求める力を身につけます。自立した社会人として活躍するための総合力と人間力を育みます。」(89.6%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

「創生学舎」の社会的必要性

- 「創生学舎」の社会的必要性について、「必要だと思う」と答えた企業は90.2% (303企業)と、ほとんどの企業からこれからの社会にとって必要だと認識されている。

企業対象 調査結果まとめ

「創生学舎」卒業生の採用意向／ 毎年の採用想定人数

- 創生学舎卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は86.6% (291企業)であり、予定している入学定員65人の4倍以上である。
- 創生学舎卒業生を「採用したいと思う」と答えた291企業へ、創生学舎卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数の合計は346名程度であった。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

採用意向 属性別傾向

◇本社所在地別

- 地元である「新潟県」の企業からの採用意向は86.4% (185人)と、予定している入学定員 (65人)を上回っている。

◇採用したい学問系統別

- 採用したい学問系統の回答によらず、創生学舎卒業生への採用意向は高く、どの学問系統においても、8割以上の採用意向が見られる。「文学系統」「法学系統」「社会学系統」「国際関係学系統」「総合科学系統」を学んだ学生を採用したいと考える企業は採用意向が特に高く、95%を超える。

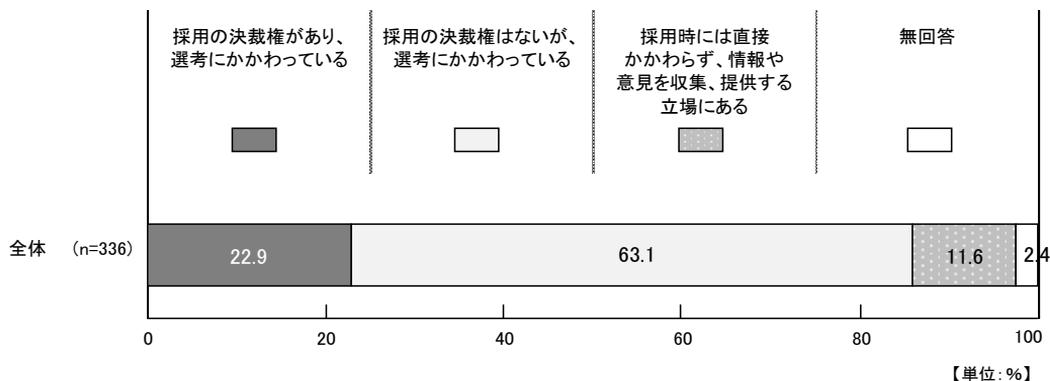
企業対象 調査結果



回答企業(回答者)の属性(人事採用への関与度/本社所在地)

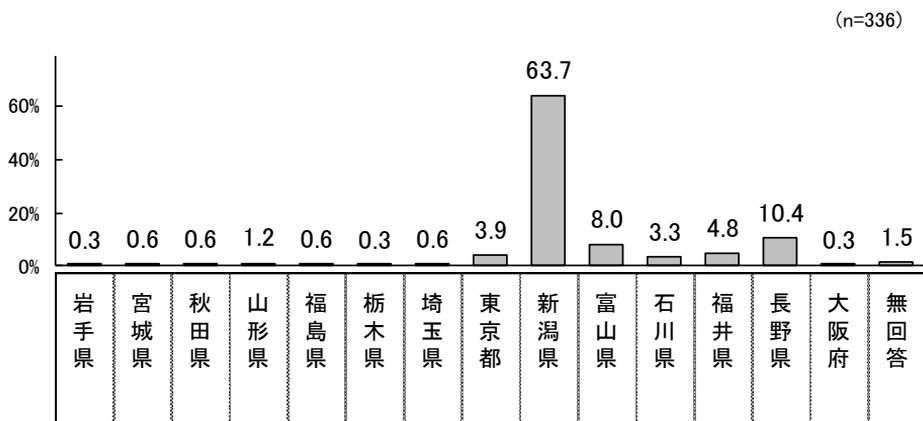
■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまるもの1つだけ)



■本社所在地

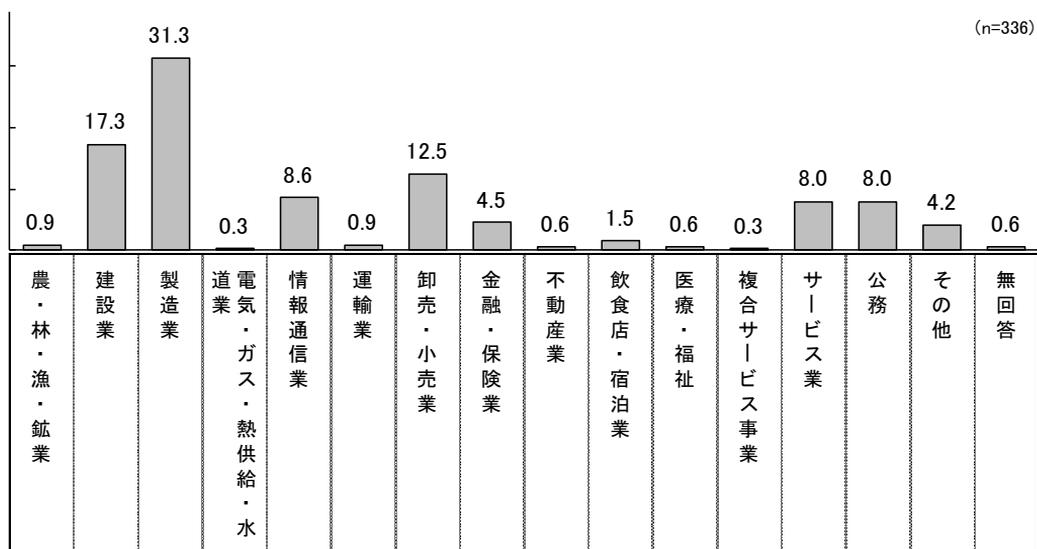
Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。



回答企業(回答者)の属性(業種/従業員数)

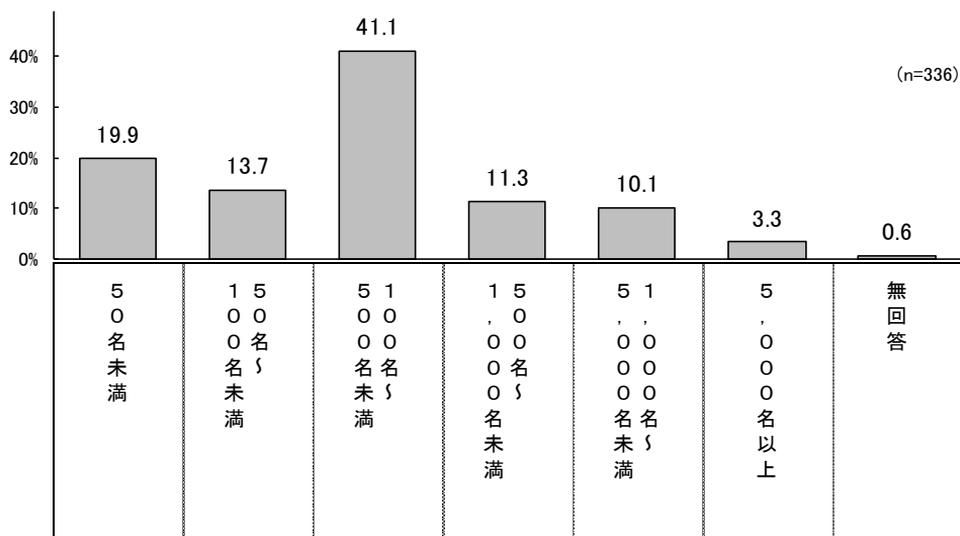
■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまるもの1つだけ)



■従業員数

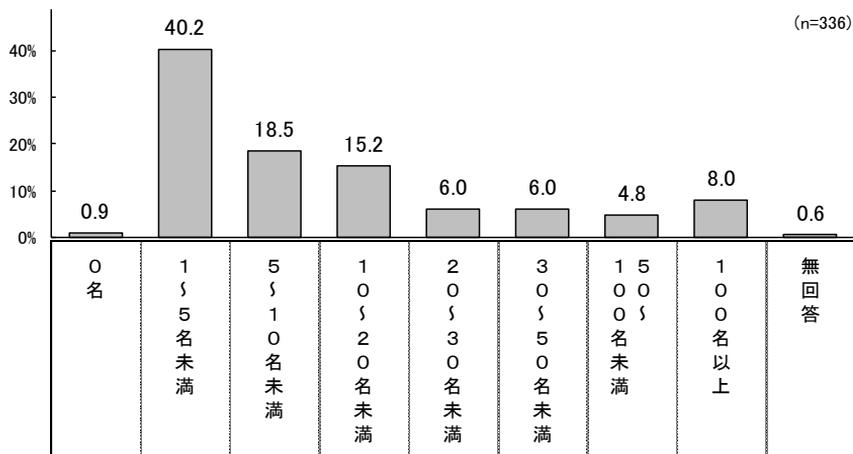
Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまるもの1つだけ)



正規社員の平均採用人数／本年度の採用予定数／採用したい学問系統

■正規社員の平均採用人数

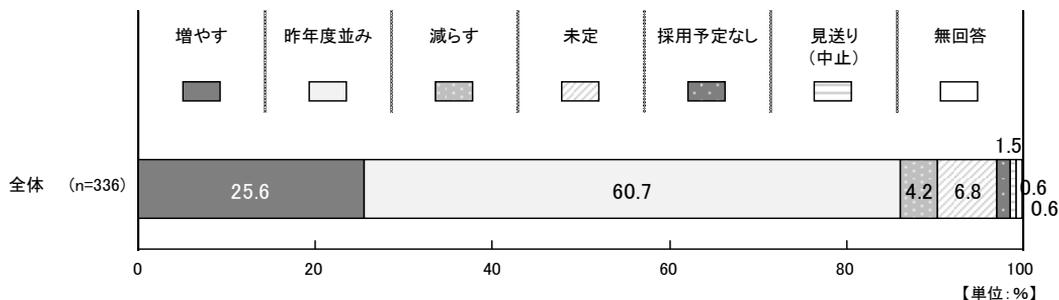
Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。



※自由記述で聴取した人数をカテゴリー分けしてグラフ化

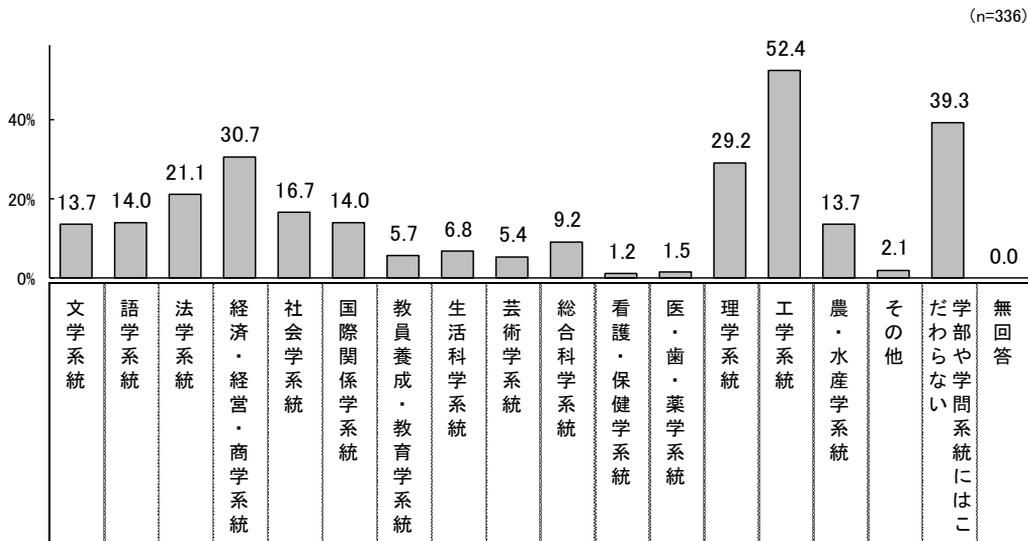
■本年度の採用予定数

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまるもの1つだけ)



■採用したい学問系統

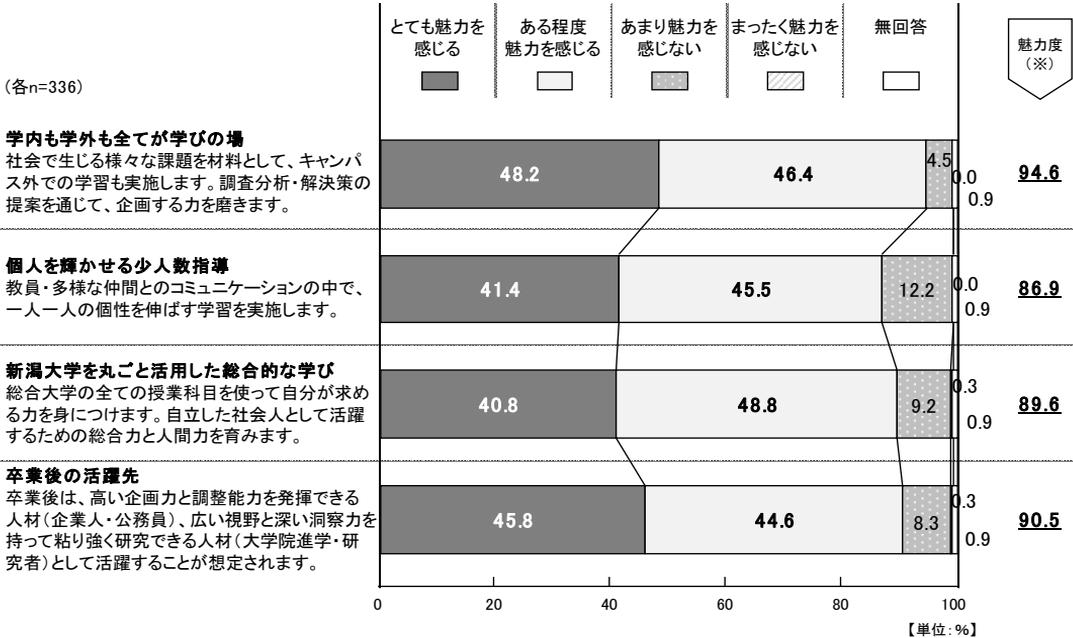
Q7. 貴社・貴団体では、どのような系統の学部等を卒業した人物を採用したいとお考えですか。(あてはまるものすべて)



「創生学舎」の特色に対する魅力度

■「創生学舎」の特色に対する魅力度

Q8. 新潟大学「創生学舎」には、以下のような特色があります。
 貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。
 (それぞれ、あてはまるものを1つだけ)



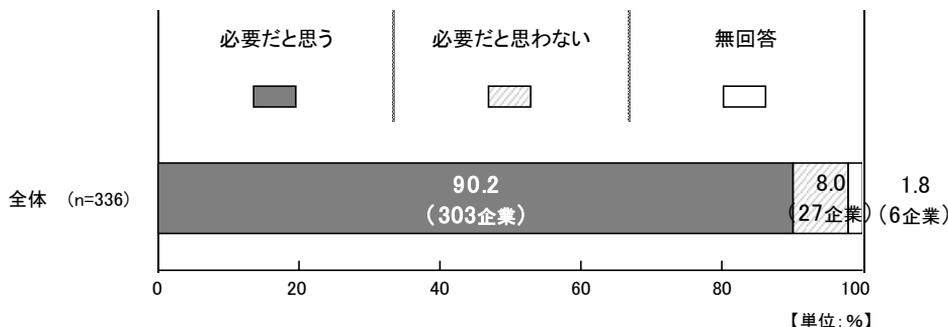
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに％を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

「創生学舎」の社会的必要性／卒業生の採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

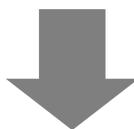
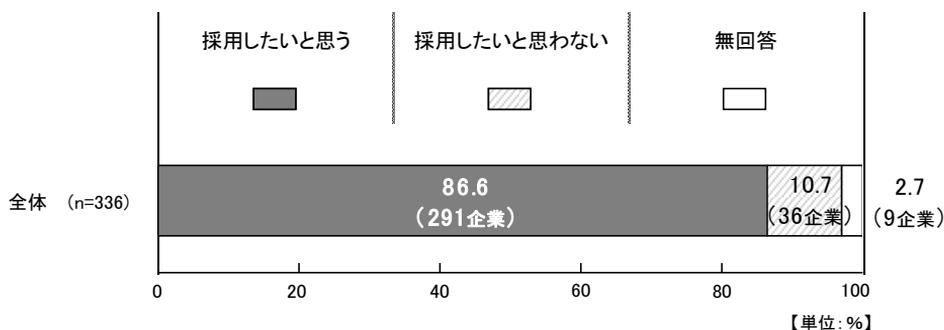
■「創生学舎」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は新潟大学「創生学舎」(仮称、設置構想中)はこれからの社会にとって必要だと思われますか。(あてはまるもの1つだけ)



■「創生学舎」卒業生の採用意向

Q10. 貴社・貴団体では、新潟大学「創生学舎」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(あてはまるもの1つだけ)



「創生学舎」卒業生を
「採用したいと思う」と答えた291企業のみ抽出

■「創生学舎」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10で「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、新潟大学「創生学舎」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまるもの1つだけ)

調査数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	人数は未確定	無回答	
全体	291	%	22.0	7.6	3.4	0.0	0.3	0.3	66.3	0.0
		件	64	22	10	0	1	1	193	0

毎年の採用想定人数・計※(名)
⇒ 346

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名、「人数は未確定」=1名を代入し合計値を算出

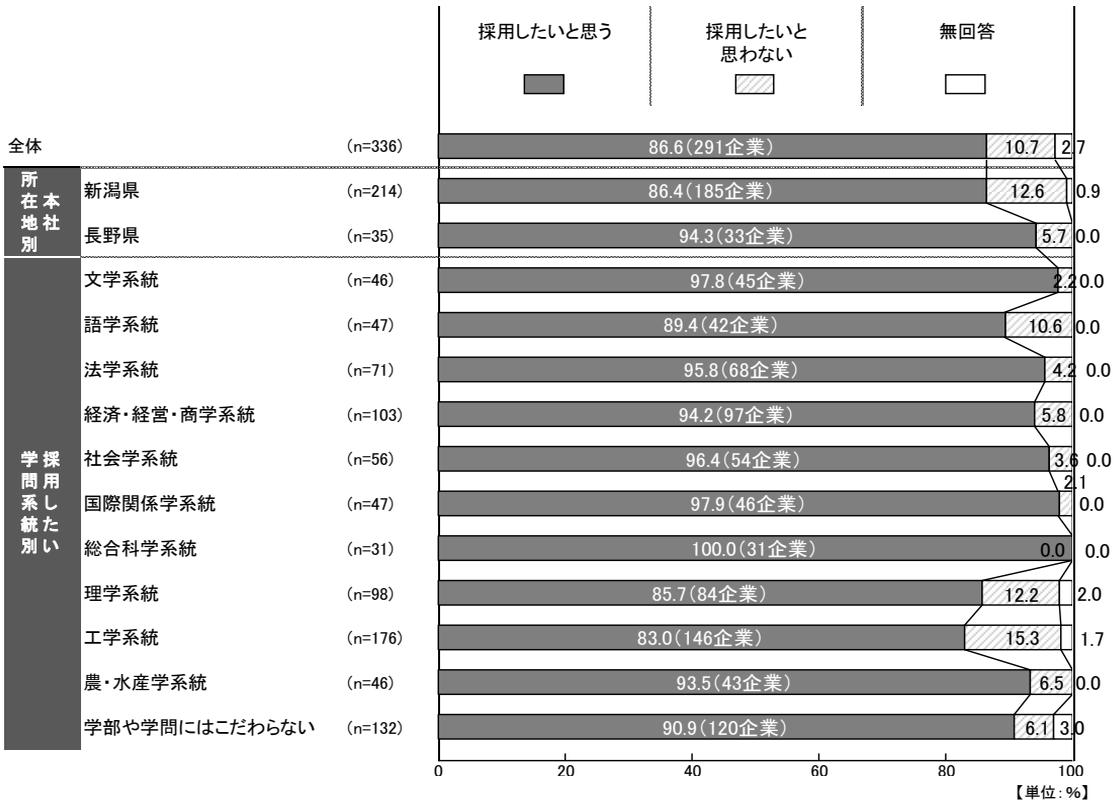
「創生学舎」卒業生の採用意向 <属性別>

■「創生学舎」卒業生の採用意向

Q10. 貴社・貴団体では、新潟大学「創生学舎」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(あてはまるもの1つだけ)

<属性別>

※サンプル数30未満は未掲載



卷末資料 調查票



企業対象 調査票

15056

Q7. 貴社・貴団体では、どのような系統の学部等を卒業した人物を採用したいとお考えですか。(あてはまるものすべて)

- | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 文学系統 | <input type="checkbox"/> 教員養成・教育学系統 | <input type="checkbox"/> 理学系統 |
| <input type="checkbox"/> 語学系統 | <input type="checkbox"/> 生活科学系統 | <input type="checkbox"/> 工学系統 |
| <input type="checkbox"/> 法学系統 | <input type="checkbox"/> 芸術学系統 | <input type="checkbox"/> 農・水産学系統 |
| <input type="checkbox"/> 経済・経営・商学系統 | <input type="checkbox"/> 総合科学系統 | <input type="checkbox"/> その他 |
| <input type="checkbox"/> 社会学系統 | <input type="checkbox"/> 看護・保健学系統 | <input type="checkbox"/> 学部や学問系統にはこだわらない |
| <input type="checkbox"/> 国際関係学系統 | <input type="checkbox"/> 医・歯・薬学系統 | |

新潟大学では、2017年(平成29年)4月に、
新しく「創生学舎」(仮称)を設置することを構想しています。
※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧くださいの上でお答えください ※

Q8. 新潟大学「創生学舎」には、以下のような特色があります。
貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。(それぞれ、あてはまるものを1つだけ)

創生学舎の特色		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
A.	学内も学外も全てが学びの場 社会で生じる様々な課題を材料として、キャンパス外での学習も実施します。調査分析・解決策の提案を通じて、企画する力を磨きます。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
B.	個人を輝かせる少人数指導 教員・多様な仲間とのコミュニケーションの中で、一人一人の個性を伸ばす学習を実施します。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C.	新潟大学を丸ごと活用した総合的な学び 総合大学の全ての授業科目を使って自分が求める力を身につけます。自立した社会人として活躍するための総合力と人間力を育みます。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
D.	卒業後の活躍先 卒業後は、高い企画力と調整能力を発揮できる人材(企業人・公務員)、広い視野と深い洞察力を持って粘り強く研究できる人材(大学院進学・研究者)として活躍することが想定されます。	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は新潟大学「創生学舎」(仮称、設置構想中)はこれからの社会にとって必要だと思われませんか。(あてはまるもの1つだけ)

- 必要だと思う 必要だと思わない

Q10. 貴社・貴団体では、新潟大学「創生学舎」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(あてはまるもの1つだけ)

- 採用したいと思う 採用したいと思わない

Q11. Q10で「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、新潟大学「創生学舎」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまるもの1つだけ)

- 1名 3名 5名～9名 人数は未確定
 2名 4名 10名以上

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。